

## 令和4年度第3回兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 議事録

日時：令和5年3月27日（月）14：00～16：00

場所：神戸市教育会館 404号室

### 【議事(1) 令和4年度事業状況報告について】

- ・事務局より、令和4年度 事業取組状況についての報告があった。

### 【議事(2) 各団体からの資料説明】

- ・社会人基礎研修では、開催3日間の中で心構え、ビジネスマナーといった社会人としての基本や建設産業に対する理解の促進のための講習を実施し、研修期間中は同年代の参加者と交流を深めてもらうことで、横の繋がりを強くし、建設産業への定着促進に取り組んでおります。令和4年度兵庫県では26名の方が受講されました。
- ・建設業入職者長期研修では、建設業の新規入職者を対象に、建築コースと土木コースに分け、建設系の学校卒業でない方でも、建設系の高校卒業レベルの基礎的な内容が学べるようにカリキュラムを組んでおります。令和5年度は5月31日から8月9日の期間で実施を予定しております。
- ・建設労働者育成支援事業では、無就業者を中心に募集しており、2回に分けて実施しております。設備コースでは、ガス溶接技能講習のほか CAD や配管の実習を実施しており、建設業入職コースでは、車両系建設機械や小型移動式クレーンなどの運転技能講習や測量実習等を行っております。
- ・県内の高校生向けに、型枠の組み立てや高所作業車等の操作体験学習を実施しました。同様の取り組みを大阪府や奈良県の建設業協会からの依頼で、高校生夏休み体験セミナーとして実施しました。
- ・令和4年度に三田建設技能研修センターで受講された方は、令和5年2月末時点で2,761名おり、昭和57年度に開設以来、のべ約8万人の修了生を全国の建設現場へ送り出しております。
- ・令和5年度の事業推進基本方針において、「建設産業への入職促進並びに離職防止・定着促進への取組み」を掲げており、一定の在職年次にふさわしいステップアップのための定期的な講習を実施することで、将来的なキャリアパスを示すことができると考えております。母体である兵庫県建設業協会等の団体と連携し、建設業への入職を検討している生徒の保護者や学校の先生方が安心して建設産業へ送り出せるよう、入職前後の各段階に応じた取り組みを実施していきたいと考えております。
- ・電業協会作成のPR動画「教えて博士!! 電気設備業界」ダイジェスト版を放映。
- ・これまで若年者へ向けたPR動画は作成していませんでしたが、青年部会が中心となってPR動画を作成しました。高校生だけでなく、中学生でも分かるように、専門用語などの難しい用語などは使用せず、アニメーションを用いることで、建設現場において電気工事がどういった役割を担っているのか、また若手技術者や女性技術者のインタビューを入れるなど、入門編として電気設備業界に興味を持ってもらえたらと思っております。
- ・兵庫県内の電気科のある高校からもPR動画を教材として使いたいといった要望もいただいているので、令和5年度は学校ともより連携していきたいと考えております。

- ・広報誌「ゆう和」について説明。
- ・会員企業に「人材確保に関する会員企業の取組」アンケートを実施し、「はじめての建築設備コース in 兵庫」について、当事業を知っている約9割の会員企業から続けてほしいとの結果が出ました。3年前には、13名に参加していただき、11名が会員企業へ就職しましたが、直近では少子化の影響等により参加者も減少しているため、今後の事業継続については、協議しながら進めていく予定です。
- ・アンケートの中で必要とする職種については、技能者や技術と回答した会員企業が多数を占めました。どのような人を採用したいかについては、大卒や工業高校卒だけでなく、普通科高校も含め幅広く採用したい企業も多く、また女性社員の採用についても、67%が考えていると回答しております。
- ・今回のアンケートを基にしながら、今後の協会としての方針や取り組みについて考えていきたいと思っております。

### 【議事(3) 令和4年度事業状況報告についての各団体からの意見・質疑等】

- ・2021年より、兵庫県建設業協会と大手前大学、大手前短期大学がキャリア・就職支援に関する協定を組んでおります。実際に協定後、大手前大学から就職される方も複数名いらっしゃいますので、一定の効果はあったと見ております。
- ・建設業の担い手確保には、工業高校生、保護者、より年少世代への魅力発信と魅力を充実させていくことが必要です。国土交通省と建設産業人材確保・育成推進協議会が実施している作文コンクール「私たちの主張」で、兵庫県建設業協会においても先日表彰を行いました。内容を見ると、幼い頃から建設業に興味を持っていた方が多く、非常に大事なことだと感じました。
- ・建設業界はもともとやりがいのある業界だと思いますが、入職促進及び就労継続のためには給与・休暇・労働時間といった環境・待遇の改善が必要であり、発注者への働きかけを継続するとともに建設業者も工夫をする必要があると思います。
- ・工事現場における書類作成等を支援する「建設ディレクター」という職種があります。三田建設技能研修センターにおいても講習が予定されており、建設業の働き方改革において、今後より注目されることになっておられると思っております。
- ・保護者に対する魅力発信に関する事業で、工業高校の女子生徒の保護者が、以前実施した現場見学会に参加され、建設業への理解を深めていただいたこともあって、4月に入職することになりましたので、保護者への魅力発信は効果があるものと考えております。
- ・建設業のみならず他業種においても、少子化の影響で担い手不足が発生しております。少子化対策をしたとしても、担い手不足への効果が出るまで最低20年はかかることから、情報技術の発達や高齢者に継続して働いてもらう必要があります。そのためにも、安全面や健康面により気を配っていく必要があると考えております。
- ・最近では電力不足の影響もあり、バッテリー関連会社から工業高校へのリクルート活動がかなり増えております。
- ・建築、電気、土木等を単独で学び育てるだけでは社会に出てから通用しなくなっているように感じており、教育現場でも専門性を極めていったり、複数業種について学ぶといった総合的な教育も検討していかなければならないかと思っておりますので、今後教育委員会とも検討していきたいと思っております。

- ・近年新型コロナウイルスの影響により、学生や教員向けの参集・対面型実習の実施が厳しく、技術を学ぶ機会が減少していましたが、令和5年度からは、ICT等を利用したハイブリット型の実施も取り入れながら全面再開を予定しておりますので、ご協力お願い致します。
- ・これまでも様々な資格検定試験で関係団体から講師を務めていただいておりますが、生徒だけでなく、教員にも指導方法等について学ぶ機会となつてほしいと考えております。
- ・高度熟練技能者を講師とした「ひょうご匠の技」探求事業を実施し、生徒や教員への技能伝承を実施しておりますが、学校の先生方が「優れた技能者がいるから自分がやらなくてもいい」といった考えにならないか危惧しております。学校の先生方が技術・技能を伸ばすことを止めてしまうと、学校教育のレベルも低下していく懸念もあるため、生徒への説明会や体験学習の際には、先生方も巻き込んでいただき、教育に関しての気づきの場となればと考えております。
- ・令和5年度の兵庫県公立高校（全日制課程）の合格状況（令和5年3月17日発表）ですが、工業科の充足率は85.4%となっており、令和4年の充足率87.9%からさらに減少しております。高校毎にPR等を行っておりますが、今後も中学校への募集活動等の方法を検討しておりますので、本事業の取組をPRに活用する等の依頼が先生方からあった際には、ご協力よろしく申し上げます。
- ・現在、人手不足や技術者の高齢化が問題となっておりますが、発注者側としてもICT化等によって少ない人員でも生産性の向上、安全性の確保ができるよう取り組んでおりますので、行政からも引き続きそのような取り組みを積極的に発信していきます。
- ・先般、丹波土木事務所と篠山産業高校が協定を締結し、生徒の現場研修や出前講座を実施していきます。地域ならではの事情もあるかもしれませんが、こういったカリキュラムがあることを知っていただくことで、進学を検討している中学生に選択肢や安心材料の一つとなるのではないかと考えており、来年度も継続して取り組んでいきたいと考えております。
- ・建設業だけでなく全産業の就職者数が減少しており、今後も右肩下がりで減少が懸念されております。年々新卒者が減っていることもあり、新卒者の確保だけに頼りすぎず、業界全体として生産性の向上や今いる従業員を辞めさせないこと、スキルアップの講習を行う等、定着にもより力を入れて取り組んでいく必要があると考えております。
- ・大学生においても、仕事のイメージができていない、何に興味があるか分からない学生が非常に多く、就職活動をするにあたって、兵庫県内の企業についても全く知らず、CM等で見た有名企業をとりあえず志望しているというのが現状です。そのため、できるだけ若いうちから体験等により仕事への理解を深めてもらうことが、将来の職業選択において大事だと考えております。
- ・従来は主に大学3～4年生を対象にした事業を実施していましたが、令和5年度より大学1～2年生に軸足を移し、早い段階から就職への意識付けを行いたいと考えております。
- ・令和5年度のインターンシップでは、11校74名を会員企業45社が受け入れ、平成12年から通算すると延べ127校1,161名の生徒が参加し、611社が受け入れております。会員企業からインターンシップ受入による社会貢献の成果性や実態を知りたいとの意見があるので、今後も教育委員会や学校側と協議しながら、インターンシップの内容をより良くしていきたいと思っております。
- ・20年以上前から工業高校に設備科がなく、直近では空調衛生の紹介ビデオも作成していないため、空調衛生の仕事の認知度が低く、アピール不足を感じております。今後もPR動画の作成も含め、空調衛生について知ってもらえるよう取り組んでいきたいと思っております。

#### 【議事(4) 令和5年度事業計画について】

- ・事務局より、令和5年度 事業計画についての報告があった。

#### 【議事(5) 令和5年度事業計画についての各団体からの意見・質疑等】

- ・事業メニューの「ものづくり体験館における、ものづくり体験学習・体験講座」において、ものづくり体験学習では従来中学生を対象にしておりましたが、令和5年度から高校生まで範囲を広げ実施を予定しております。また体験講座においても、小学生を対象にものづくり大学校で実施しておりましたが、令和5年度は神戸・但馬でも実施する形で進めております。
- ・労政福祉課において、平成28年度より中小企業就業者確保支援事業として兵庫型奨学金返済支援制度を設けております。最近でも多くの大学生が奨学金を借りており、兵庫県内の大学生だと平均で約300万円程度を借りている場合が多く、就業後に返済している状況です。企業によっては、奨学金の一部を支援している場合もあり、そういった企業に対して上限6万円の補助を行ってまいりました。これまでは企業負担への支援としておりましたが、令和5年度からは本人負担も支援していく形になりますので、補助の対象となる企業がありましたら申請をお待ちしております。
- ・1～2年の女子大学生を対象に「わたしのキャリア研究会」という事業を実施しており、学生と企業が5名程度のグループとなって半年間の課題研究に取り組んでいただいておりますが、令和5年度からは男子大学生も対象にして実施を予定しております。4月頃に参加いただける企業を募集しますので、ご興味がありましたら応募いただければと思います。
- ・令和5年度より新規事業として「中小企業採用力強化支援事業」を実施し、中小企業の採用活動がより効果的に行えるように支援を行っていきたいと考えておりますので、他の事業と同様ご興味がありましたら応募いただければと思います。
- ・令和5年度は5年ぶりに日本電設工業展が関西で開催される予定です。関西開催時は、兵庫県内の工業高校生を招待しており、バス移動に係る交通費を県から補助いただいておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

#### 【閉会挨拶】

##### ●土木部次長(会長)